

授業科目名	刑法Ⅱ(総論・各論)【20台】 刑事法Ⅱ【19台以前】	期別	後期	授業形態	講義
担当者名	北野 通世	単位数	2	開講年次	1

### 授業科目の概要

「共犯論」、「罪数論」(刑法総論)と財産罪(刑法各論)について講義する。  
 刑法総論・各論の基本的知識・思考を正確に修得させることを目標とする。  
 刑法学における体系的思考を修得させ、具体的な事案に即して、それを問題的思考に組み直すことにより、刑法の解釈・適用に必要な基本的思考力を修得させることを目標とする。

### 到達目標

- (1) 刑法総論・各論の基本的な知識を、正確に修得する。
- (2) 刑法上の問題点に関係する判例・(基本的な)学説の立場を理解し、それを説明することができるようになる。
- (3) 具体的な事例について、刑法上問題点を指摘し、妥当な結論を導くための論理を組み立てることができるようになる。

### 成績評価基準および方法

中間テスト(30%)および定期試験(70%)の成績により、評価する。  
 評価の基準は、上記の到達目標の到達度による。

### テキストおよび参考文献

刑法総論のテキストとして、高橋則夫著「刑法総論(第4版)」成文堂(2018)ISBN 978-4-7923-5256-1(定価4,320円)、および、参考図書として、「刑法判例百選Ⅰ総論(第7版)」有斐閣(2014)ISBN 978-4-641-11520-0を用いる。  
 刑法各論のテキストとして、高橋則夫著「刑法各論(第3版)」成文堂(2018)ISBN 978-4-7923-5257-8(定価4,860円)、および、参考図書として、「刑法判例百選Ⅱ各論(第7版)」有斐閣(2014)ISBN 978-4-641-11521-7を用いる。  
 そのほかに、開講時にレジユメを配布する。

### 履修上の留意点、準備学習等(事前・事後学習)

事前学習:テキストとレジユメを精読し、正確に理解して授業に臨むこと。予習時間は、最低5時間が必要である。全員が予習して来たものとして、授業を進める。  
 事後学習:授業の内容を整理し、理解を確実なものとするかしないかにより、学習の成果に大きな開きが生じる。最低3時間を目途に、理解できるまで復習すること。

### 授業計画および内容等

第1回	共犯(1)	(1) 総説(共犯の意義と種類、任意的共犯と必要的共犯) (2) 正犯(正犯の意義、間接正犯) (3) 共犯の基礎理論(行為共同説と犯罪共同説、共犯従属説と犯罪独立性説、共犯の処罰根拠)
第2回	共犯(2)	共同正犯(共同正犯の意義、共同実行の意思、共同実行の事実1〔共謀共同正犯の成否〕、共同実行の事実2〔過失の共同正犯の成否〕)
第3回	共犯(3)	教唆犯・幫助犯(共犯の従属性〔実行従属性(教唆の未遂、順次共犯)、要素従属性、罪名従属性〕、教唆犯、幫助犯)
第4回	共犯(4)	共犯の諸問題(片面的共犯、不作為による共犯、承継的共犯、共犯からの離脱、身分犯の共犯)

第5回	罪数	(1) 犯罪の個数（罪数論の意義、罪数の決定基準） (2) 一罪（単純一罪、法条競合、包括一罪） (3) 科刑上一罪（観念的競合、牽連犯） (4) 併合罪（併合罪の要件、併合罪の処断）
第6回	中間テスト	(1) 中間テスト (2) 中間テストの解説
第7回	刑法各論総説 財産罪総説	(1) 刑法各論総説 (2) 財産罪総説（財産の刑法的保護、財産罪の客体、奪取罪の保護法益、不法領得の意思）
第8回	窃盗の罪	窃盗の罪（総説、窃盗罪、不動産侵奪罪、親族相盗例）
第9回	強盗の罪(1)	強盗の罪1（総説、強盗罪、強盗予備罪、事後強盗罪、昏酔強盗罪）
第10回	強盗の罪(2) 詐欺の罪(1)	(1) 強盗の罪2（強盗致死傷罪、強盗・強制性交等罪、強盗・強制性交等致死傷罪） (2) 詐欺の罪1（総説、詐欺罪の成立要件）
第11回	詐欺の罪(2)	詐欺の罪2（三角詐欺〔意義、訴訟詐欺、クレジットカードの不正使用〕、電子計算機使用詐欺罪、準詐欺罪）
第12回	恐喝の罪 横領の罪(1)	(1) 恐喝の罪 (2) 横領の罪1（総説、単純横領罪）
第13回	横領の罪(2)	横領の罪2（業務上横領罪、遺失物等横領罪、親族相盗例）
第14回	背任の罪	背任の罪（総説、背任罪）
第15回	盗品等に関する罪 毀棄・隠匿の罪	(1) 盗品等に関する罪（総説、盗品譲受け等罪、親族相盗例） (2) 毀棄・隠匿の罪（総説、公文書等毀棄罪、私文書等毀棄罪、器物損壊等罪、自己の物の損壊、境界損壊罪、信書隠匿罪）
<b>関連 URL</b>		
<b>備考欄</b>		
予習において生じた疑問は、授業中に解消すること。そのためには、積極的に質問すること。		